Club Je Pense

2021年1月講義

恋愛論

恋愛という概念を
哲学的視点で考察する

1．恋愛を疑う
2．恋愛の役割
3．恋愛の活用

1．恋愛を疑う

まず

現在の恋愛の概念を確認します

ここでは
広義の「愛」という概念については
あえて触れません

『新明解国語辞典 第５版』では

特定の異性に特別の愛情をいだき
高揚した気分で
二人だけで一緒にいたい
精神的な一体感を分かち合いたい
できるなら肉体的な一体感も得たい
と願いながら常にはかなえられないで
やるせない思いに駆られたり
まれにかなえられて歓喜したりする状態に
身を置くこと

『新明解国語辞典 第６・７版』では

特定の異性に対して
他の全てを犠牲にしても悔いない
と思い込むような愛情をいだき
常に相手のことを思っては
二人だけでいたい
二人だけの世界を分かち合いたいと願い
それがかなえられたと言っては喜び
ちょっとでも疑念が生じれば不安になる
といった状態に身を置くこと

『デジタル大辞泉』では

特定の異性に特別の愛情を感じて
恋い慕うこと

また

男女が互いにそのような感情をもつこと

これらの要素を抽出すると

男女間に起こるもの

離れている人に心を惹かれること

二人が同じような状態にあること

常には満たされないこと

まとめると

・男女間に起こるもの

・離れている相手に心を惹かれること

・二人が両思いであること

・常には満たされないこと

逆に言うと

同性同士の場合は恋愛ではない
同棲や結婚などの状態は恋愛ではない
片思いは恋愛ではない
常に満たされると恋愛ではない
不倫こそ恋愛純度は高い

この定義によるならば
恋愛という状態は
簡単にはなれないもの

また

恋愛関係を維持発展させていくには

特有の戦略や技術が必要です

確認になりますが
本来この世界に
「恋愛」という関係性や
「恋」という精神状態は
存在しません

誰かが勝手に
「恋愛」という言葉を作り
概念を定義しているだけです

よって

国や時代が違えば

恋愛の定義は変わってきます

プラトニック・ラブの語源である
古代ギリシアの哲学者プラトンの時代
青年男性と思春期前後の男性の
肉体関係を前提とした少年愛が一般的で
プラトン自信も男色であった

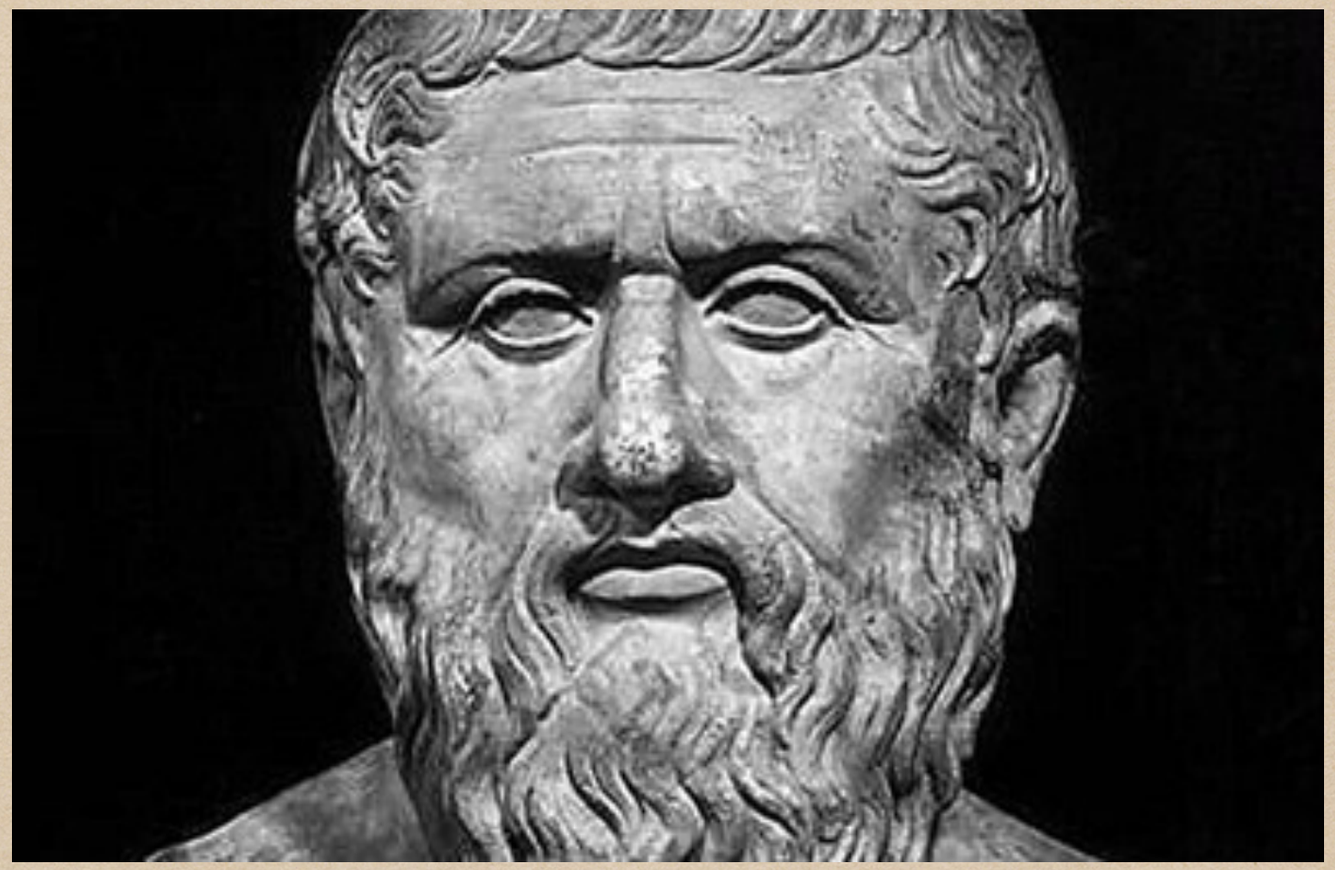
少年愛は嗜好というより
少年への教育として
立派な年長男性が果たすべき義務だった

人類の長い歴史で見ると
戦国時代の小姓なども含め
男同士の淫行は一般的で
現代の恋愛定義の方が特殊とも言えます

他にも
最近はポリアモリーという概念も
認知されてきましたが
複数の異性と関係を持つことは
人類の長い歴史では特殊ではありません

また
歴代の哲学者たちも
「愛」については語っても
「恋愛」については真剣に
語ってはいない様子

ここで質問ですが
なぜ哲学者は真剣に
恋愛について語らないと考えますか？

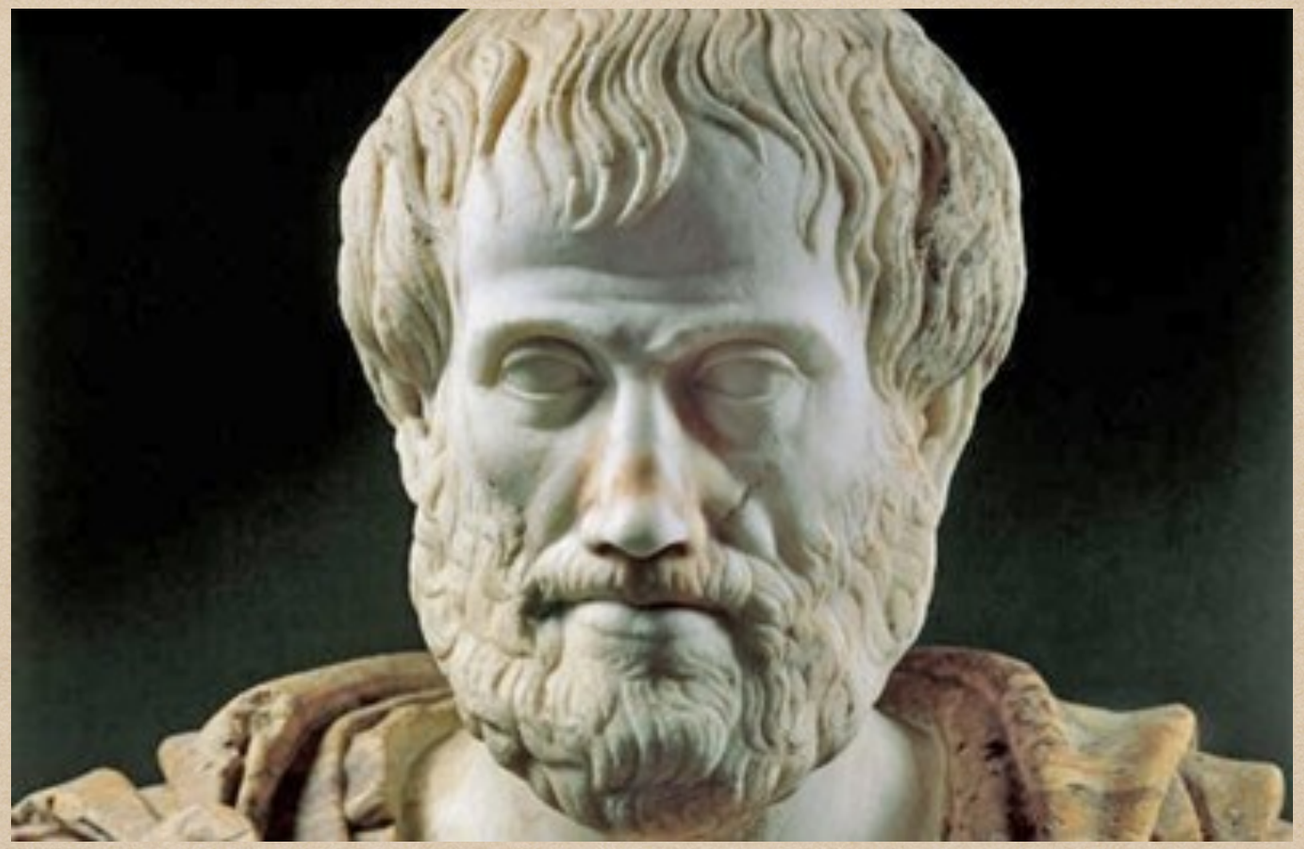


プラトン

恋されて恋するのは恋愛ではなく

友愛である

まずいのは
精神より肉体を愛してしまう
俗な愛人です



アリストテレス

いないときに相手を慕い
その人が自分のそばにいることを
欲してやまぬ場合にのみ
恋愛しているのである

愛とは
二つの肉体に宿る
一つの魂で形作られる

ニーチェ

男は
「これぞ、と感じる女を奪ってやれ」
と思う

女は奪わず、そっと盗む。

男が本当に好きなものは二つ
危険と遊びである
男が女を愛するのは
それがもっとも危険な遊びであるからだ

カント

愛とは感性に属する事柄であって
意欲に属する事柄ではない
だから
欲したからといって愛せるわけではないし
ましてや愛さねばと思ったから
愛せるわけでもない

真面目に恋をする男は
恋人の前では困惑したり
拙劣であり
愛嬌もろくにないものである

などなど
論理明晰な哲学者も
恋愛の話になると
なぜか詩的に

西洋東洋と問わず
「恋愛」は利己的な行為として
隣人愛（アガペー）や
慈愛（メッター）などの
「愛」と二元論で語られやすい

「愛」は真心

「恋」は下心

キリスト教などでも
恋愛を汚らわしいのもとすることで
かえって「禁止への侵犯」の欲を掻き立て
恋愛の価値を高めていった

恋愛はやましいもの？

それとも

恋愛は素晴らしいもの？

本当は恋愛をしていないのに
自分の感情を恋愛にハメ込んで
恋に恋している
恋愛もどきの人もいるのでは？

恋愛の一つや二つもしていないと
寂しい人生だと感じさせる
社会的な圧力はありませんか？

お見合い結婚より
恋愛結婚の方が
結婚としての質が高いと思うような
風潮はありませんか？

セックスフレンドしかいない人より
恋人しかいない人の方が
幸せだと思う風潮はありませんか？

本当に恋愛はそこまでの価値が
あるのでしょうか？

2. 恋愛の役割

次は
恋愛という概念は
私的にどのような役割を持つのか
考えてみましょう

その前に
恋愛という行為の
社会にとっての役割の確認

現代の資本主義社会においては
恋愛（疑似恋愛）のほとんどが
商行為に結びつきます

政治的な意図では
政治に無関心な若者を大量に作り出せます

そして

芸術の題材としての恋愛

では
社会的役割に対して
恋愛という概念やその行為は
どのようなメリットやデメリットを
個人生活にもたらすのでしょうか？

考えてみましょう

ちなみに
「忠死」という概念に
臨場感はありますか？

構造の影響で
国や社長や上司のために死ぬことが
男としてとてつもなく格好良いという
価値観を持って生きている人もいます

ただ
この「忠死」という概念は
一般的に浸透していませんので
それに伴う社会的影響も少ないでしょう

もし
恋愛という概念が一般化してなかったら
どんな世界になると考えますか？

考えてみましょう

3．恋愛の活用

恋愛を俯瞰して活用するために
今ある恋愛の固定点をなくし
恋愛の概念を再定義しましょう

まずは
恋愛不要を論じましょう

なぜ

恋愛は不要なのでしょうか？

それでも

恋愛を必要だとする人は

なぜそこまで必要なのでしょう？

最後に
恋愛とは？

恋愛とは…

愚か者になる嗜好品

酒タバコと同じで
手軽に手に入り
お金がかかり健康に悪いのに
依存性が高くやめられない

本来はなくていいものだけど
あると楽しい

そしてそのうち
ないと楽しくないと思ってしまう

賢い人たちは
決してそれに溺れずに
距離をおいている

恋愛は
プレーヤー（お客役）よりも
バンカー（胴元役）になれ

ご成長ありがとうございます